

旧三菱化学社宅跡地の再開発が進められています



平成 24 年 9 月に閉鎖された元三菱化学小古曾社宅（菱が丘）は平成 26 年 1 月から建物の解体撤去が進められ、一面の更地となっています。平成 28 年 3 月末の工事完成後は 404 区画の大住宅団地が出来上がることとなります。

引き継がれてきたクリーンアップ精神

第30回を迎えた 内部川清掃(7/6) 内部地区社会福祉協議会

地域のシンボルである内部川を自分たちの手で守ろうと 30 年前の昭和 60 年（1985）に子どもたちの提案で始まった内部川清掃。今年も地域内の 14 団体と 2 企業（内部川の護岸工事を担当された久志本組と信藤建設）、中学生、地域の住民とその子供たち約 1,700 人が参加して行われました。



牛乳パックで望遠鏡作り(7/22) 内部地区市民センター



内部地区市民センターが主催する環境未来塾「エコこうさく体験教室」として、四日市市環境学習センターの指導による「牛乳パックでつくる望遠鏡！！」が開催されました。大変な人気のため、定員を増員して児童（1 年から 5 年）とその保護者を含め、35 名が工作に挑戦しました。

マスコミも注目・・・内部の「緊急情報カード」を NHK が報道

内部地区連合自治会が昨年 10 月に各戸に配布した緊急医療情報カードが、救急に関する先進的な取り組みとして NHK7 月 25 日朝 7 時台後半からの地域のニュースレポートで詳しく紹介されました。



人は、1人では生きられず、
 子どもは家族だけでは育てられず、
 人と人が助け合い、
 支え合う社会の力で、
 生き、
 育っていきけるのです。

遊具と工作で大にぎわい(7/25)

移動児童館

内部地区市民センターで移動児童館が開かれ、おおぜいの子どもたちが遊具で遊び、工作をつくって楽しみました。やってきた遊具は、もぐらたたき・ハンバーガーとばし・カエルどぼん。また、手作り工作はびっくり箱・紙てっぽへリコプター。特に、写真のカエルどぼんは大人気でした。



大人気こどもクッキング(7/31・8/1) JAみえきた内部支店



JAみえきた内部女性部（田中英子部長）と地区市民センター共催による「子どもクッキング」が行われました。夏休み恒例となったこの催しも今年で9回目、毎回大人気で2日間合わせて男子13名、女子18名の計41人が参加しました。

大四日市まつりで踊りを披露(8/2)

内部地区婦人会

8月2日（土）、「大四日市まつり」の市民総踊りに、内部地区婦人会の会員29名が出演し、華麗な踊りを披露しました。



内部川の生物調べ(8/2)

社協青少年育成部



子どもたちに人気の「内部川探検」も今年で 12 回目。夏休みの行事として定着し、親子 40 名が参加しました。子どもたちの大好きな川遊びをしながら内部川の生き物調査を行い、併せて内部川の自然に親しみ、環境について学びました。

中山寺のモッコクが四日市市天然記念物に指定 (8/8)

南小松町にある真慧上人ゆかりの寺、中山寺の本堂裏に聳えるモッコクが四日市市の天然記念物に指定されました。

このモッコクは樹高 13.2m、根元幹回り 6.9m あり全国最大級の木。北勢地方の巨樹・名木 30 本のうち選ばれています。中山寺が南小松の現在の地に再建されたときに植えられたと伝えられていることから、樹齢 450 年以上（市の記者発表資料では 300 年超）と推定されています。

これで内部地区の文化財は貝家町上品寺の釈迦如来像と合わせて 2 件となりました。



珍虫発見 (8/18)

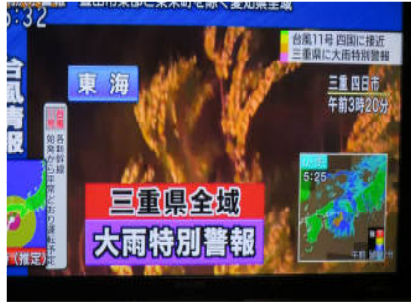
波木が丘町

頭の先に扇のようなものがある細長い紐のようで、胴は幅 3 ~ 4 mm の扁平で長さは約 20cm の珍しい生き物を波木が丘町の小林宏祐さんが自宅の庭で発見しました。調べたところ「コウガイビル」と判明。

「コウガイ」とは筭（女性の髪飾り）で、頭の形を髪飾りに見立てて名付けられたもの。見たところ気持ち悪いだけで、毒や牙、爪、角など武器はなく、人間に害となるものは一切ないとのこと。

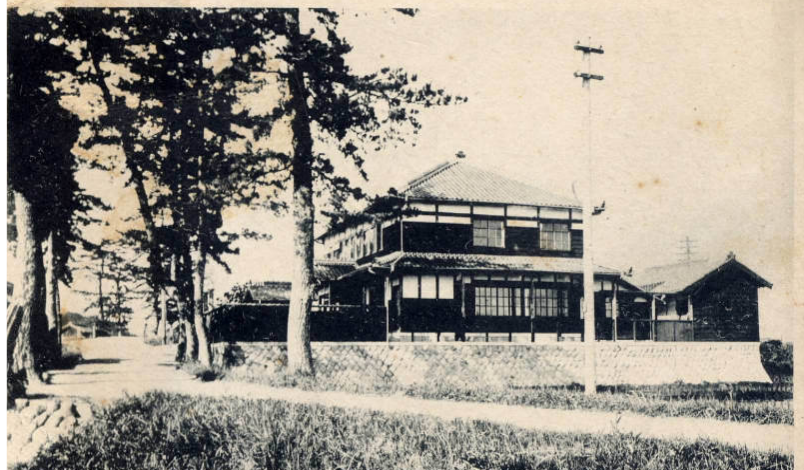


台風 11 号で全市避難指示、その時内部は (8/9~10)



強い台風 11 号が九州東海上に接近してきた 8 月 9 日 (土)、四日市市は大雨特別警報を受けて夕方、市内全域 312,610 人に避難指示を出すと同時に避難所開設を進め、24 時時点で市内の指定避難所は 116 か所にのぼりました。内部地区では同日夕刻より地区市民センターにセンター館長以下職員と本庁職員、連合自治会会長、同副会長と自主防災協議会会長が出動、避難所開設に対応しました。避難所担当の自治会会長は本庁職員と共に内部小・内部東小・内部中学校の各体育館に避難所を開設、19 時ごろには 3 か所の指定避難所開設が完了しました。避難者は 9 日夜から 10 日にかけて 3 避難所に延べ 7 家族、14 人でした。四日市市全体では 9 日 23 時で 228 世帯 459 人でした。また貝家町、北小松町、南小松町では独自に、集会所に避難所を開設して出水に備えました。

旧内部村役場の写真発見 (8/18) うつべ町かど博物館



小古曾町の旧家の遺品から旧内部村役場の写真が発見されました。建物は大正 7 年頃に内部橋南詰め of 東海道沿いに建築され、東海道の松並木も残っています。内部村は明治 22 年 (1889) 波木・貝家・采女・北小松・小古曾の 5 か村が合併して成立し、昭和 18 年 (1943) 四日市市に合併するまで続きました。合併後は四日市市出張所となり、建物は昭和 47 年 (1972) 四日市市内部地区市民センターが現在の位置に移るまで使われました。

三世代交流の「米づくり体験」で稲刈り (8/30) 北小松町

北小松町長寿会、同子供会の催しに他の活動団体が協力する地域ぐるみの三世代交流「米づくり体験」の稲刈りがおこなわれ、60 人が参加しました。昔ながらのコメづくりを通じて三世代が交流し、地域の絆を深めました。



内部小 5 年生が昔ながらの稲刈り (9/3) 内部小学校



坂正春さんの田んぼで、田植えから収穫までの米づくりを体験している内部小学校 5 年生の稲刈りがありました。のこぎり鎌で 1 株ずつ稲を刈り、わらで縛って一束とし、千歯こぎと足踏み式脱穀機にかけて脱穀するという昔ながらのやり方を体験しました。

各地区で多彩な敬老行事 (9/15) 各地区自治会

敬老の日 (9/15 月) のお祝いとして各地区自治会では独自に食事会や懇親会、紅白まんじゅうの配布、カラオケ、懐かしの歌合唱、健康や交通安全のお話、ゲーム、マジックなどの催しを行って、みんなて親睦を深めました。



歌と朗読、ミュージックベル演奏 (10/4) ハートフルコンサート実行委員会



「光降る夜に奏でる歌と朗読歌のこころ」と題して第 9 回お月見コンサートが行われました。障がい者への思いをテーマに構成された歌と朗読、ミュージックベル演奏というこれまでとは少し雰囲気違ったコンサートに、聴衆の皆さんは思わず胸にじんときる、感動的なひとときを過ごしました。

防災ピクニック (10/5)

冒険広場をつくる会



各家庭で準備している防災リュック (非常持ち出し袋) を持って避難所まで歩き、災害時の避難を体験することを目的として開催。

台風 18 号のため、メインの「防災リュックを背負って避難経路を歩く」体験は出来ませんでした。避難所の内部

東小学校体育館で、「アルファ米のランチ」「持参した防災リュックの中身紹介」等、避難の疑似体験を楽しみました。

内部川河川敷でデイキャンプ (10/12) 子育連

内部地区の子供会が参加する恒例のデイキャンプ。これまで采女城跡に登って行っていた野外レクレーションを今年は内部川河川敷に変更したため遊びの時間が増え、たくさんのメニューが準備されました。



子どもたちは①クイズ大会②子供会対抗竹切り大会③幼児対象のお楽しみ宝探し④小学生以上対象の竹トンボを飛ばそう⑤どんぐり笛づくりなど、盛りだくさんのゲームを楽しみました。

史跡めぐりバスツアー (10/16)

采女城跡保存会



43 名が参加して中津川市の城山に築かれた国指定史跡苗木城跡を訪れました。苗木城は木曾川から、標高差 170m の岩山に築かれ、露出した巨岩に石垣を巡らせ、岩の上とわずかな平地に張り付くようにして郭を配置した全国でも珍しい城です。



わが采女城跡とは大きく異なったユニークな城とその歴史を勉強できた、印象的で有意義な旅行となりました。